

高等学校日语教材

概说 日本文学史

刘利国 罗丽杰◎编著

がいせつにほんぶんがくし



大连理工大学出版社



高等学校日语教材

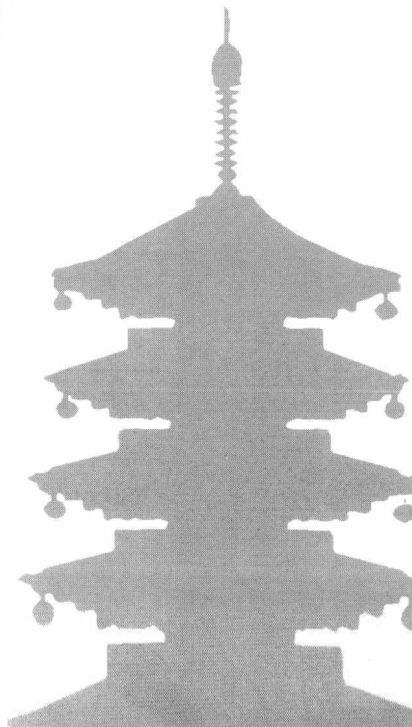
がいせつにほんぶんがくし

概
说
日
本
文
学
史

刘利国 罗丽杰◎编著



大连理工大学出版社



图书在版编目(CIP)数据

概说日本文学史 / 刘利国, 罗丽杰编著. — 大连 :
大连理工大学出版社, 2013. 1
ISBN 978-7-5611-7477-7

I. ①概… II. ①刘… ②罗… III. ①日本文学—文
学史—教材 IV. ①I313.09

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2012)第 295868 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 传真:0411-84701466 邮购:0411-84703636

E-mail:dutp@dutp.cn URL:http://www.dutp.cn

大连金华光彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:165mm×235mm 印张:21 字数:330千字

印数:1~5000

2013年1月第1版

2013年1月第1次印刷

责任编辑:宋锦绣 张凡 责任校对:徐双杨波
封面设计:山野物语

ISBN 978-7-5611-7477-7

定 价:39.00元

前 言

日语专业的学生在经过本科一、二年级的基础学习之后，到了三、四年级，急需扩展一些日本文化、文学等方面的周边知识，以丰富日语知识的内涵，提高日语综合实力。

本书的编撰旨在解决学生学习日本文学方面无所适从的茫然局面，全面系统地对日本文学史进行梳理与诠释，进而言之，为庞大的日本文学史学习构架起一个完整的框架，按时间、事态的发展，解说日本文学的流向及趋势，以便使教师的讲授条理清晰，使学生的学习轻松准确。因此，这是一部通俗易懂、简明扼要的日本文学史综合学习教材。为了方便学习者学习，在每个时期讲解之后还设有各种练习，提示学习重点的同时，也为参加各大院校的研究生备考提供一个演练的机会。

本书全面介绍与评述了日本由古至今二千余年的文学发展史，对日本文学史的发端、沿革、嬗变的历史轨迹、重要流派、主要作家及其代表作品进行了详实的阐述与客观的评价。与其他的文学史教材相比，本书主要的特点如下：

①本书在正式出版之前，在大外日语专业经历了三年的试用版教学。是在教学实践与反思的基础上，经过完善、补充，最终成稿的一本经得住实践检验的教材；

②本书按时代具体详尽地讲解日本文学的发生与发展，脉络清晰、通俗易懂。从上代、中古、中世、近世到近代、现代，把各个时期的文学背景、特点、主要文学体裁、代表人物、风格、意义及影响等进行了具体、全面的

介绍与概括。还着重系统地讲述了近代文学部分，基本上囊括了明治维新以来日本文学发展史上出现的所有文学流派、重要作家和作品。对当代作家的介绍也是本书的一大亮点；

③每一种文学形态的产生都有它的历史渊源，文学也是最能反映时代特征的载体。在介绍各个时代的文学作品之前，清晰地交待了时代的背景与文学发展的特点。目的是让学生把握时代的特征，理解其文学作品产生的根源，从而更好地把握住这一时期的文学特点；

④众所周知，学习文学史，是一个记忆系统的大挑战。本书还针对重要时间、作家、作品等，增加了快速记忆文学史的方法，使学习更轻松，更有乐趣；

⑤按一个学期的课程安排好单元章节，合理分配学时，保障一个学期下来能顺利地对日本文学史进行一个全面系统的介绍与概括；

⑥每个时期讲解之后，安排适当的练习题，在提示本时期重点、增添学习点的同时，还让学生有一个自测及消化吸收的过程。而且答案就在其后，便于确认与记忆。

⑦在全部讲解之后，设有日本文学史整体测试题及八级考试文学史真题与模拟测试；

⑧在附录部分设有各个时代的主要文学作品“冒头文”介绍与作品简介和赏析，供学习时参考，让学生切身体会作品并加深理解；

⑨为更好地提高教学效果，还配合本书制作了教学课件，可供教学参考。

希望本书的出版能为我国日语专业的学习者学习日本文学史提供一个可选择的蓝本，进而为中日文化交流提供互相借鉴的平台。

因编者水平有限，难免出现各种疏漏，恳请诸位同仁、读者批评指正。

2012年冬月吉日

编者

目次

第一部 文学史編

第一回 日本文学史の時代区分と特色

1. 日本文学史の時代区分	2
2. 他の区分方法	4
3. 日本文学の特色	4
練習問題 1	7

第二回 上代文学の概説

1. 上代（大和・奈良時代）	9
2. 時代背景	9
3. 文学の動向（大和・奈良時代）	10
4. 上代文学の展開	11
5. 上代文学の特質・性格	13

第三回 上代文学の具体像

1. 史書・地誌・祭祀文学	14
(1) 『古事記』	14
(2) 『日本書紀』	14
(3) 『風土記』	16
(4) 『祝詞』と『宣命』	16
2. 『万葉集』とその周辺	17
3. 漢詩集とその周辺	22
(1) 漢詩集——『懷風藻』	22
(2) 歌論書——『歌経標式』	22
練習問題 2	23

第四回 中古文学の概説

1. 中古の範囲	26
2. 時代背景	26
3. 文学の動向	27
4. 中古文学の展開	29
5. 中古文学の特質・性格	30



第五回 中古文学の具体像

1. 勅撰集と私家集	32
(1) 勅撰漢詩集	32
(2) 勅撰和歌集〈三代集〉〈八代集〉	32
(3) 私家集（個人の歌集）	33
2. 『古今和歌集』とその周辺	34
(1) 『古今和歌集』〈最初の勅撰和歌集〉	34
(2) 歌謡（民衆の生活の中から発生）	37
3. 物語文学の系譜	38
4. 『源氏物語』の世界とその周辺	40
5. 女流自照文学の成立	42
(1) 日記	42
(2) 随筆	44
6. 歴史物語と説話物語	46
(1) 歴史物語（貴族の回顧精神の所産）	46
(2) 説話物語（上代の神話・伝説に連なる）	47
練習問題 3	49

第六回 中世文学の概説

一、中世文学概観	56
1. 時代背景	56
2. 文学の動向	58
二、中世文学の展開	60
1. 鎌倉期（1192～1335の約150年間）	60
2. 南北朝・室町期（1336～1602の約250年間）	60
三、中世文学の特質・性格	61

第七回 中世文学の具体像

1. 和歌とその周辺	62
(1) 『新古今和歌集』の世界	62
(2) 私家集	63
(3) 藤原俊成と藤原定家の親子	64
2. 連歌とその周辺	64
(1) 連歌	64
(2) 歌謡	65

3. 軍記物語の世界	66
4. 中世の物語文学	67
(1) 説話物語	67
(2) 歴史物語	69
(3) 作り物語	69
(4) 物語評論	70
5. 隠者の文学——長明と兼好——	70
(1) 『方丈記』鴨長明（僧名、蓮胤）	70
(2) 『徒然草』吉田兼好（本名、卜部兼好）	71
6. 中世の日記・紀行と戯曲	73
(1) 日記・紀行	73
(2) 能楽（謡曲）・狂言——戯曲の誕生	74
練習問題 4	76

第八回 近世文学の概説

一、近世文学概観	84
1. 時代背景	84
2. 文学の動向	85
二、近世文学の展開	88
1. 前期	88
2. 後期	88
三、近世文学の特質・性格	89

第九回 近世文学の具体像

1. 俳諧の系譜	90
2. 芭蕉（1644～1694）の世界	91
3. 近世小説の展開	95
(1) かな草子	95
(2) 浮世草子	96
(3) 八文字屋本	97
(4) 前期読本	97
(5) 後期読本	97
(6) 洒落本	98
(7) 滑稽本	99

(8) 人情本	100
(9) 草双紙	100
4. 近世の戯曲	101
(1) 浄瑠璃（人形劇の詞章）	101
(2) 歌舞伎	102
5. 近世の詩歌と随筆	102
(1) 川柳と狂歌	102
(2) 国学・和歌	103
(3) 随筆・俳文	104
練習問題 5	106

第十回 近代文学の概説

一、近代文学の概観	112
1. 時代背景	112
2. 文学の動向	113
二、近代文学の展開	115
三、近代文学の特質・性格	117

第十一回 近代文学の具体像（1）

一、近代の小説・評論	118
1. 明治初年代～明治 10 年代末（啓蒙期）	118
2. 明治 10 年代末～明治 30 年代	118
3. 明治 30 年代後半～明治 40 年代	123

第十二回 近代文学の具体像（2）

4. 明治 30 年代末～大正年間（反自然主義文学の隆盛）	127
-------------------------------------	-----

第十三回 近代文学の具体像（3）

5. 大正末期～昭和初年代	134
6. 昭和 10 年代の文学と戦時の文学	137
7. 戦後文学の展望（昭和 20 ～ 30 年代）	138
8. 昭和 30 年代	141
9. 昭和 30 年代以降	142



第十四回 近代文学の具体像 (4)

二、近代の詩…………… 146

1. 前期 (勃興期=文語体定型詩の時代) …… 146

 第一期：新体詩の時代 …… 146

 第二期：浪漫主義の時代——藤村・晩翠時代
 (明治20年代～30年代前半) …… 146

 第三期：象徴主義の時代——泣菫・有明時代
 (明治30年代後半～40年代) …… 147

2. 中期 (開花期=口語自由詩の時代) …… 147

 第一期：自由詩運動の時代
 (明治40年——明治末期) ——きたはらはくしゅう北原白秋の登場——… 147

 第二期：新人詩人の時代 (大正初年——大正12年) …… 148

3. 後期 (展開期=新しい詩形の出現) …… 150

 第一期：プロレタリア詩と超現実主義の対立時代
 (大正13年——昭和8年) …… 150

 第二期：戦時中の詩の時代 (昭和9年——昭和20年) …… 151

 第三期：戦後の詩の時代 (昭和20年——現在) …… 152

第十五回 近代文学の具体像 (5)

三、近代の俳句…………… 153

1. 革新運動——月並調を排す (明治20年代) …… 153

2. 新傾向俳句 (自由律俳句の提唱) …… 154

3. ホトトギス派 (定型律の保守) …… 154

4. 新興俳句運動 (反ホトトギスの革新運動) …… 154

5. 人間探求派 (苦悶派・難解派) …… 155

6. 現代俳句 …… 155

第十六回 近代文学の具体像 (6)

四、近代の短歌…………… 156

1. 明星派<雑誌「明星」(明33)> …… 157

2. アララギ派・根岸短歌会<雑誌「アララギ」(明41)> …… 157

3. 自然主義の影響 …… 158

4. 耽美派<雑誌「スバル」(明42)> …… 159

5. プロレタリア短歌 …… 159

6. 戦後短歌	159
7. 前衛短歌	160
8. 現在活躍中の歌人	160
五、近代の戯曲	160
1. 「新派劇」の成立（明治20年代）	161
2. 「新劇」運動の展開（明治末～大正年間）	161
六、近代文学の二大潮流	163
練習問題6	164

第二部 実践入ト編

	問題編	解答編
一、古文編		
1 基本チェック	178	253
2 上代	184	254
3 詩歌	185	254
4 物語	188	254
5 日記	191	254
6 歴史	193	255
7 随筆	194	255
8 説話	195	255
9 軍記	197	255
10 江戸	199	255
11 俳諧	201	256
12 国学	203	256
二、現代文編		
1 基本チェック	205	256
2 散文	210	257
3 詩	219	258
4 短歌	220	258
5 俳句	222	258



三、問答編

STEP1 上代——奈良時代……………	224	259
STEP2 中古——平安時代前期……………	225	259
STEP3 中古——平安時代中期……………	226	260
STEP4 中古——平安時代後期……………	227	260
STEP5 中世——鎌倉時代前期……………	228	261
STEP6 中世——鎌倉時代後期……………	229	261
STEP7 中世——室町時代前期……………	231	262
STEP8 中世——室町時代後期……………	232	262
STEP9 近世——江戸時代前期……………	233	263
STEP10 近世——江戸時代中期……………	234	263
STEP11 近世——江戸時代後期……………	235	264
STEP12 近代——啓蒙期・写実主義……………	236	264
STEP13 近代——擬古典主義・浪漫主義……………	237	265
STEP14 近代——自然主義……………	238	266
STEP15 近代——反自然主義……………	239	266
STEP16 近代——新現実主義……………	241	267
STEP17 近代——プロレタリア文学・転向文学……………	242	267
STEP18 近代——新感覚派・新興芸術派・新心理主義……………	243	267
STEP19 近代——文芸復興期……………	244	268
STEP20——戦後の文学……………	245	268
STEP21——昭和30年代の文学……………	246	269

四、日本語専門八級試験日本文学史例題とサンプル

2002年……………	248	270
2003年……………	248	270
2004年……………	248	270
2005年……………	249	270
2006年……………	249	270
2007年……………	250	270
2008年……………	250	270
2009年……………	251	270
2010年……………	251	270
2011年……………	251	270

サンプル 1	252	271
サンプル 2	252	271

附録

一、各時代の作品の冒頭文	272
上代・奈良時代	272
中古・平安時代	272
中世・鎌倉 / 室町時代	275
近世・江戸時代	276
近現代・明治時代	276
二、詩作鑑賞	282
三、近・現代文学作品の紹介	286
四、近代文学雑誌	297
五、日本文学の流れ	298
参考文献	321



第一部



文学史編



第一回 日本文学史の時代区分と特色

1. 日本文学史の時代区分

(1) 上代（大和・奈良時代）：文学発生から

口承文学から記載文学へと発展していく。最初は中国の真似をして、漢詩集『懐風藻』や歴史書『古事記』『日本書紀』なども作り、文字も漢字を表音文字として使った。日本最古の歌集『万葉集』も作った。貴族文学の時期である。

(2) 中古（平安時代）：平安遷都（794年）から

前期はまだ中国の影響が強かったのである。漢詩集をどんどん作られ、国風暗黒時代といった。半ばごろに入ると、宮廷に仕える女性たちが非常に活躍して、『枕草子』『源氏物語』などの大作が出た。このとき、日記も随筆も物語もたくさん作られ、貴族文学（女房文学）が盛んな時期である。上代と同じく、貴族文学の時期である。

● 中古の暗記法：泣くよ、鶯 平安京（京都）

【解釈】庶民だけではなく、鶯まで平安遷都を悲しんで、「泣くよ」（794年）という。京都は昔、平安京と呼ばれていた。

(3) 中世（鎌倉、室町時代）：鎌倉幕府成立（1192年）から

中世は戦乱の時期であるから、戦を描く『平家物語』などの軍記物語がたくさん出た。そして、戦乱で人々は精神的な支えをなくし、仏教にたどり着きがちである。それゆえ草庵文学が盛んになった。仏教の無常などを描く作品がたくさん作られた。『方丈記』『徒然草』などで、武家文学の時期である。



- 鎌倉幕府の暗記法：源頼朝みなもとのよりともは いい国作る 鎌倉幕府

【解釈】頼朝は武士を中心にした「いい国」(1192年)を作ろうとして、鎌倉幕府を設立した。

- 室町時代の暗記法：瞳見ひとみみや尊氏たかうじ、喜ぶよろこ室町

【解釈】俺の「瞳見や」(1338年)と足利尊氏あしかがたかうじが言いながら幕府の成立を喜んでいた。尊氏は室町幕府の初代将軍で夢窓法師むそうぼうしに帰依し、嵯峨さかえに天龍寺てんりゅうじを建立した。

(4) 近世 (江戸時代) : 江戸幕府成立 (1603年) から

前の時代とは違い、戦いが終わり、わりと安定した生活を送ることができる時代である。日本の資本主義もだんだん発展し始めた。町人たちは経済力がつくと、娯楽に気を向けられるようになった。このとき、子供向けの青本あおほん、赤本あかほん、大人向けの黄表紙きびょうし、仮名草子かなぞうし、浮世草子うきよぞうし、読本よみほんなど、たくさん出た。また伝統芸能として、浄瑠璃じょうるり、狂言きやうげん、歌舞伎かぶきも盛んに演じられ、町人文学の時期である。

- 近世の暗記法：家康いえやすで人群れ満ひとむみつる江戸幕府えどばくふ

【解釈】徳川家康の人氣が殊に高く、「人群れ満つ」(1603)という。江戸幕府の出足はかなりよかったようである。

(5) 近代 (明治・大正・昭和時代) : 明治維新 (1868年) から

近代は日本は西洋に学び、世界大国となっていく過程である。西洋文明が盛んに流入してくる時代である。そして二回の世界大戦もあり、変動が激しい時期でもある。西洋思想がどんどん伝わってきて、文学史上には写実主義、擬古典主義、浪漫主義などいろいろな流派が生まれた。世界的にも有名な文豪——夏目漱石なつめ そうせき、森鷗外もりおうがい、川端康成かわばたやすなりなども出てきたりして、市民文学の時期である。

- 明治時代の暗記法：明治だぞ、一つやろうや御維新じゃ

【解釈】改革の意気に燃える若き武士たちを中心に「一つやろうや」(1868年)と燃え上がったという。

- 大正時代の暗記法：大正たいしやうは人食ひとくいに出る荒れた時期で

【解釈】大正時代は、政治的にも経済的にも波乱の大きかった時期で、ひもじさのあまり「人食いに」（1912年）出たものもいたかもしれない。

(6) 現代（平成時代）：平成改元（1989）～現在まで

2. 他の区分方法

政治史的	/ 精神史的	/ 階級的
上代・中古	/ 情（感情）	/ 貴族文学
中世	/ 法（仏法）	/ 武家文学
近世	/ 道（儒教）	/ 町人文学
近代	/ 主義（流派）	/ 市民文学
現代	/ 主張・個性	/ 大衆文学



3. 日本文学の特色

(1) 自然との融合

日本は気候が温暖で、四季が緩やかに推移するという特色を持つ。西洋人は自然と闘い、自然を克服しようとしたのに対し、日本人は自然と共存し、自然と一体になることを願ってきた。

このような風土から生まれた文学は、当然自然との融合を重んじた。まず、古代の和歌は、自然を細かく観察し、自然に心情を託することから出発した。この傾向は平安時代に入ると、散文の世界にも広まる。随筆『枕草子』はその好例である。『源氏物語』においても自然は象徴として重要な働きをしている。中世に入ると、西行のように自然の意味を問い詰める歌人も出現する。また、自然は人間のさまじまの営みの原点であるという考え方から、自然に隠遁する隠者文学も生まれた。近世の俳諧は、自然を抜きにしては考えられない文学の形態であり、それは伝統的な近代俳句の季題重視へと連なっていく。近代では、散文の分野で、国木田独歩の『武蔵野』や徳富蘆花の『自然と人生』など、数々の名編が生まれた。明治末期に盛行した自然主義文学は、人間の真実を追求しながら、あるがままの自然に最大の価値を発見している。一方、志賀直哉の唯一の長編小説『暗夜行路』のクライマックスも、主人公の時任健作の鳥取県の大山大山で自然と一体になり、心の平安を得た場面である。川端康成の作品や中島敦の『山月記』でも、自然は象徴として効果的に使われている。